

学びの質を高める 授業スタンダード

令和元・2年度 学びの質を高める授業改善プロジェクト事業
学びの質を高める授業スタンダード検討委員

金子依里	教諭	平内町立小湊小学校	小野強幸	主任指導主事	西北教育事務所
長谷川紘一	教諭	青森市立南中学校	蒔苗尚文	指導主事	西北教育事務所
新井麗香	教諭	五所川原市立栄小学校	尾崎徳哉	指導主事	西北教育事務所
成田伊保子	教諭	板柳町立板柳中学校	棟方仁人	指導主事	中南教育事務所
建部裕	教諭	平川市立柏木小学校	鳴海博史	指導主事	中南教育事務所
船水佳子	教諭	黒石市立中郷中学校	山本保子	指導主事	中南教育事務所
森本賢志	教諭	十和田市立深持小学校	金澤希代子	指導主事	上北教育事務所
中野渡志保	教諭	十和田市立甲東中学校	小林忠輝	指導主事	上北教育事務所
久保真一郎	教諭	むつ市立大畑小学校	原田英治	指導主事	上北教育事務所
菩提寺学	教諭	むつ市立大平中学校	中村邦夫	主任指導主事	下北教育事務所
湊尚人	教諭	八戸市立旭ヶ丘小学校	工藤貴史	指導主事	下北教育事務所
佐々木一成	教諭	南部町立福地中学校	梅内太郎	主任指導主事	三八教育事務所
石川慎	指導主事	東青教育事務所	今田華織	指導主事	三八教育事務所
安保泰仁	指導主事	東青教育事務所			

なお、青森県教育庁学校教育課が編集に当たりました。

課長	長内修吾	総括副参事	佐々木勝規
主任指導主事	成田王仁	指導主事	太田成人
指導主事	館山知昭	指導主事	築館雅樹
指導主事	三橋央尚	指導主事	淋代秀樹
指導主事	久慈直子		

令和2年3月
青森県教育委員会

はじめに

～全ての教師、子供たちのために～

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展しています。このような時代において、子供たち一人一人が、予測できない変化に主体的に向き合っており、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けさせることが求められています。

学校教育においては、子供たちが学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」を基底とした授業改善を図ることが必要です。

今回の学習指導要領改訂では、学習内容と方法の両方を重視し、子供の学びの過程を質的に高めていくことを目指しています。よって、学校においては、単元や題材のまとまりの中で、子供たちが「何ができるようになるか」という目的や、「何を学ぶか」という学習内容を明確にし、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていくことが重要となります。

これらのことを踏まえ、県教育委員会では、令和元・2年度「学びの質を高める授業改善プロジェクト事業」を実施することとし、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を通して質の高い授業を実践するための『学びの質を高める授業スタンダード』を策定することとしました。

平成27・28年度に実施した「主体的に学ぶ力を育む学力向上推進事業」では、本県の学力向上における課題やその解決の方策、目指す授業の方向性等について、学力向上アドバイザーとともに幅広い視点から協議を重ね、『学力向上アドバイザー会議のまとめ』を作成し、各学校、各市町村教育委員会に対し積極的な活用をお願いしてきました。

また、同事業で作成した『主体的に学ぶ力を育む授業改善ハンドブック』は、課題解決型の学習過程において、授業者が「課題を意識する場」「協働的に学ぶ場」「学びを生かす場」の三つの場面を計画的に設定することにより、子供たちの主体的に学ぶ力を育んでいくことをねらいとして作成しました。（※算数・数学、理科、社会、総合的な学習の時間について提示）

本書『学びの質を高める授業スタンダード』は、新学習指導要領を踏まえ、これまで県教育委員会が実施した学力向上に関する事業における実践事例や全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイデア例、県学習状況調査報告書等で提示された授業における改善のポイント等を参考にし、作成しました。『主体的に学ぶ力を育む授業改善ハンドブック』と、この『学びの質を高める授業スタンダード』と併用して活用することを推奨します。

本書が、本県の各先生方の授業改善と、児童生徒の資質・能力の向上のために御活用いただけるよう願っております。

令和2年3月

学校教育課長 長内修吾

目次

はじめに ～全ての教師、子供たちのために～

I 学びの質を高めるよりよい授業づくりを目指して

1 子供たちを取り巻く社会的背景	2
2 本県の子供たちの学力の現状	2
3 学習指導要領の趣旨を踏まえた資質・能力の育成を目指して	3
(1) 資質・能力の三つの柱	
(2) 学習の基盤となる資質・能力の育成	
(3) カリキュラム・マネジメントによる組織的・計画的な教育課程の実践	
4 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	5
(1) 主体的な学びを実現する	
(2) 対話的な学びを実現する	
(3) 深い学びを実現する	
(4) 各教科等における、児童生徒が「見方・考え方」を働かせる指導	
(5) 学習評価	
5 学習場面における指導のポイント	11

II 各教科の「学びの質を高める授業スタンダード」

1 <小学校版>	
(1) 国語科	14
(2) 社会科	16
(3) 算数科	18
(4) 理科	20
(5) 外国語科	22
2 <中学校版>	
(1) 国語科	24
(2) 社会科	26
(3) 数学科	28
(4) 理科	30
(5) 外国語科	32

本書の使用に当たって

◇日々の授業や校内研修で活用

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、どのように授業を進めていくのかを考えることが大切です。

本書の各教科の授業スタンダードは、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を行う上で、効果的な学習過程や指導内容等を一例として、1単位時間（単元）にまとめています。

授業づくりにおいてそれぞれの学習場面についての指導の参考にしたり、校内研修の取組に活用したりするなど、児童生徒の実態に応じて柔軟に活用してください。

◇「課題」の表記について

学校教育法、学習指導要領及び学習指導要領解説では学習場面において解決すべき学習課題やめあてについて、「学習課題」「学習問題」「課題解決」「問題解決」「課題」「問題」「問い」と、表記のしかたが異なります。

本書「各教科の『学びの質を高める授業スタンダード』」では、「何を学習するか」「何ができればよいか」などの学習課題やめあてを「課題」と統一して表記しています。

◇指導の具体例について

各教科の授業スタンダードに示している指導の具体例は、県の学習状況調査の報告書に掲載されている指導例や、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例から引用し、新学習指導要領を踏まえて再編集したものです。

I 学びの質を高めるよりよい授業づくりを目指して

1 子供たちを取り巻く社会的背景

予測が困難な時代の中、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、また、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることなどが求められています。

このことは、本来、我が国の学校教育が大切にしてきたことであるものの、学校内における教師の世代間のバランスが変化し、教育に関わる様々な経験や知見をどのように継承していくかが課題となり、また、学校が抱える課題も複雑化・困難化する中で、これまでどおり学校の工夫だけにその実現を委ねることは困難になってきています。

このような状況を踏まえ、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有するとともに、それぞれの学校においては、学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程で明確にしなが、社会との連携・協働によりその実現を図っていくという、「社会に開かれた教育課程」の実現が重要となります。

また、こうした理念の実現に向けて、教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すことなどが求められています。

2 本県の子供たちの学力の現状

全国学力・学習状況調査や本県で実施している学習状況調査の結果から、本県の子供たちは、基礎的・基本的な知識・技能の定着はおおむね良好な状態にあります。これは、本県教員が子供たちの基礎的・基本的な学力の定着を目指し、継続して取り組んできたこと、また、授業のねらいを明確にし、子供たちの考えを生かした学習活動を進めてきたことなどが大きな要因となっているものと考えられます。また、その指導を素直に受け止め、努力することができる子供が多いことも、教員の指導の効果を反映させているものと思われる。

しかし、一方では全国の課題と同様に、思考力・判断力・表現力等あるいは習得した知識や技能を活用する力が十分でないなどの課題が挙げられています。各学校においては、子供たちや地域の実態に応じた取組が進められており、多くの優れた実践が研究会等を通して共有されているところです。今後は、基礎的・基本的な知識及び技能の習得をこれまでと同様に大切にしつつ、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいく必要があります。

3 学習指導要領の趣旨を踏まえた資質・能力の育成を目指して

(1) 資質・能力の三つの柱

中央教育審議会答申（H28.12.21）では、教育基本法が目指す教育の目的や学校教育法第30条第2項に示す学校教育において重視すべき三要素（いわゆる「学力の三要素」）に基づき、子供たちの現状や課題を踏まえつつ、この先の社会の在り方を見据えながら学校教育を通じて子供たちに育てたい姿について以下のように示しています。

【学校教育を通じて子供たちに育てたい姿】

- 社会的・職業的に自立した人間として、我が国や郷土を育んできた伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができること。
- 対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えとともに、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりを持って多様な人々と協働したりしていくことができること。
- 変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができること。

(H28.12.21中央教育審議会答申より)

このことを整理すると、

ア「何を理解しているか、何ができるか」

（生きて働く「知識・技能」の習得）

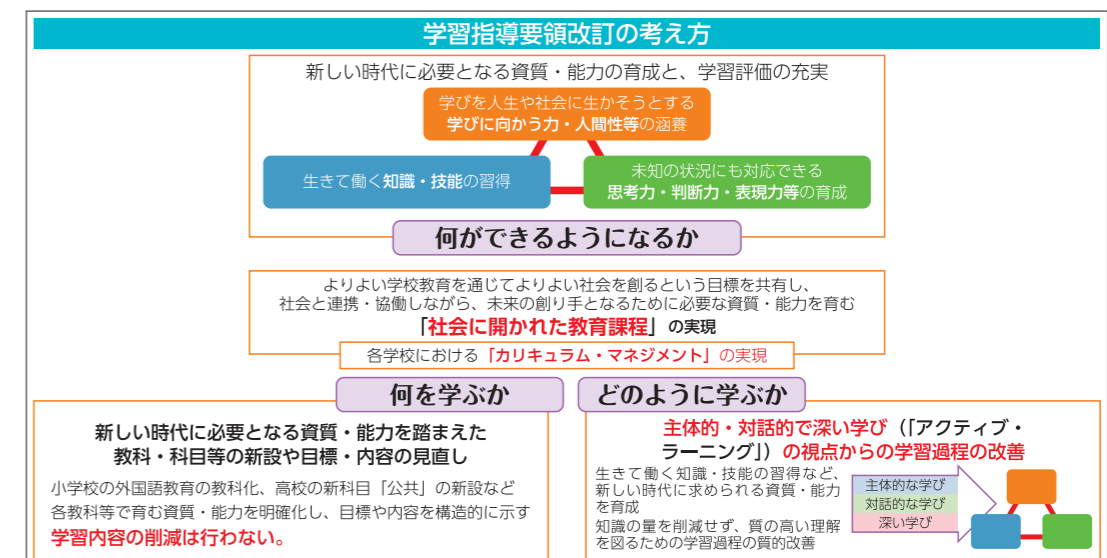
イ「理解していること・できることをどう使うか」

（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）

ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」

（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

となります。育成を目指す資質・能力として明確に捉え、日々の授業を実践していくことが必要です。



(H28.12.21中央教育審議会答申資料より)

(2) 学習の基盤となる資質・能力の育成

各学校においては、児童生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、留意する必要があります。

日々の学習や生涯にわたる学びの基盤となる言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等について、児童生徒の発達の段階を考慮し、それぞれの教科等の役割を明確にしながら、教科等横断的な視点で育んでいくことが重要です。

ア 言語能力

言葉は、児童生徒の学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものです。

イ 情報活用能力

情報活用能力は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力です。

ウ 問題発見・解決能力

各教科等において、物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく力です。

（小学校及び中学校学習指導要領解説総則編より）

(3) カリキュラム・マネジメントによる組織的・計画的な教育課程の実践

学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実させるとともに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行う必要があります。

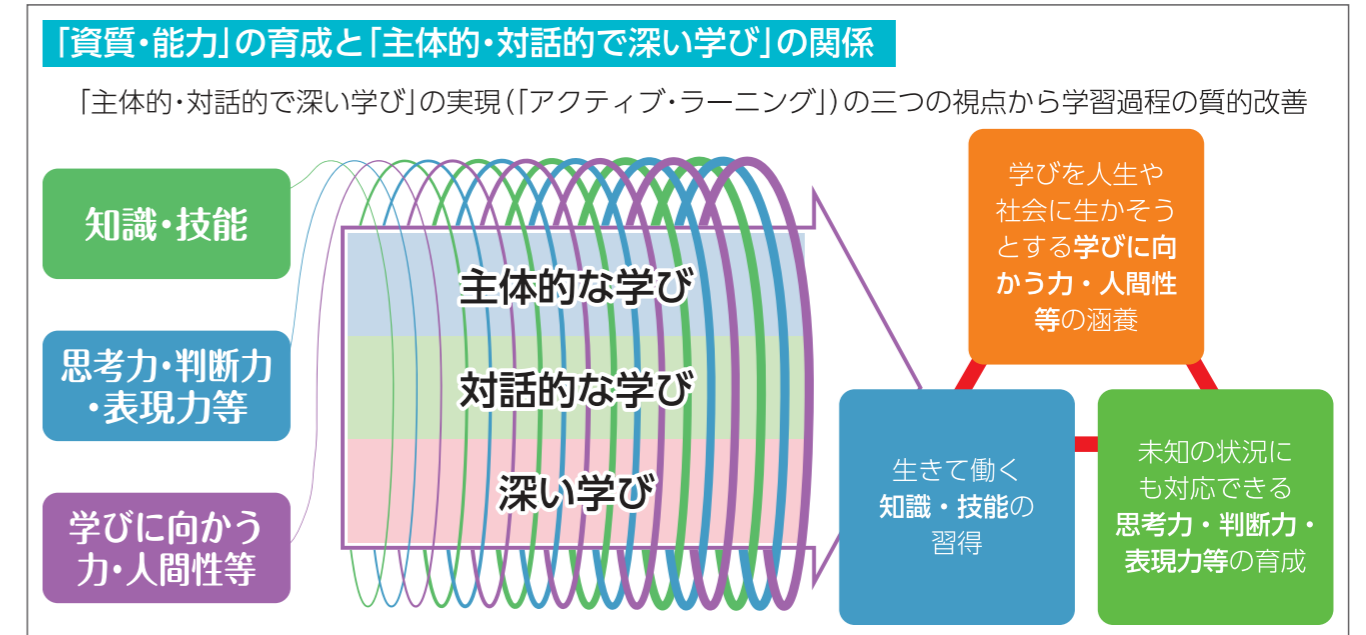
児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくことや、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、また、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的・計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことに努める必要があります。

また、各教科等の取組が教育課程全体の取組として有機的に編成され、機能しているかどうか見直すことも大切です。その際、教科等横断的な視点をもって教育計画を立てるとともに、「社会に開かれた教育課程」を実現するために家庭や地域との連携を図ることが重要となります。そのような取組を充実させることが、教育活動の質の向上につながり、授業改善がなされていくのです。

4 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められています。

これからの授業においては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、育成すべき資質・能力を明確に捉え、学習の在り方について、不断の改善を図り優れた授業実践に取り組む必要があります。



（H28.12.21中央教育審議会答申資料より）

(1) 主体的な学びを実現する

【主体的な学びの視点】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

主体的な学びを実現するためには、子供自身が興味をもって積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返って意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要です。

そのためには、子供自身が自らの学びを調整できるようになることが大切です。自分事の課題を、自分の力で解決し、その過程と成果を自覚することを繰り返すことにより、子供は自分自身の力で学びを調整することができるようになり、主体的な学びへとつながります。

子供にとって、真につながりのある学びが生まれるかどうかは、学習の過程における「課題設定の場面」において実生活や実社会とのつながりのある質の高い課題設定ができるかどうかにかかっています。

「見通しの場面」では、解決に向けて進めていく過程のイメージを明らかにすることが必要であり、学習活動のゴールのイメージをもつことが大切です。実際の学習活動を展開し

ていく際には、ゴールやそこへの道筋があることにより、子供たちは前向きになり、主体的に学んでいきます。また、ゴールへの見通しがあることによって、学びが連続し、情報としての知識や技能がつながり、関連付けていくことが期待できます。

「振り返りの場面」では、自らの学びを意味付けたり、価値付けたり、他者と共有したりしていくことが大切です。例えば、「学習内容を確認する振り返り」、「学習内容を現在や過去の学習内容と関連付けたり、一般化したりする振り返り」、「学習内容を自らとつなげ、自己変容を自覚する振り返り」などが考えられます。

このような取組を通して、子供たちは学びの価値を実感し、自己の変容に気づき、手応えをつかんでいくこととなります。実感や手応えなどのポジティブな感情は次の行為を生み出す重要な感覚です。こうした感覚や感情を獲得する繰り返しが、自ら学び続ける意思をもった子供の育成につながっていきます。

(2) 対話的な学びを実現する

【対話的な学びの視点】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

対話的な学びは、身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解を促します。また、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話することにより思考を広げ深めさせます。

そのためには、多様な他者との学び合いをの場面を設定することが大切です。他者へ説明することにより、情報としての知識や技能が構造化され認識されるようになります。また、同時に他者からの多様な情報が供給されることで、知識や技能はより質的に高まるものと考えられます。対話は、他者と共に新たな知を創造する場を生み出し、課題解決に向けての行動化が期待できます。

子供は、対話を通して、知識を比較、関連付けながら処理し、再構成します。情報を入力する場面、情報処理をする場面、情報を出力する場面の三つに分けて、対話の場面を豊かに広げていくことが効果的です。

(3) 深い学びを実現する

【深い学びの視点】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

深い学びでは、子供たちが学びの過程において、身に付けた三つの資質・能力を活用・発揮しながら物事を捉え、思考することにより、資質・能力がさらに伸びることが期待できます。教師は、教える場面と子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に展開し、指導していくことが求められます。

深い学びとは、子供たちが、習得・活用・探究を踏まえた各教科等固有の学習過程（プロセス）の中で、それまで身に付けていた知識や技能を存分に活用・発揮し、知識や技能が相互に関連付けられたり、組み合わせられたりすることにより、構造化、身体化していくことです。つまり深い学びは、学習過程としてのプロセス（習得・活用・探究を視野に入れた各教科等固有の学習過程）が大切なポイントとなります。

なお、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点は、子供の学びの過程としては一体として実現されるものであり、それぞれ相互に影響し合うものです。

<三つの視点における子供が思考・判断・表現する具体的な姿>

◇主体的な学びの視点	◇対話的な学びの視点	◇深い学びの視点
<ul style="list-style-type: none"> • 興味や関心を高める • 見通しをもつ • 自分と結び付ける • 粘り強く取り組む • 振り返って次へつなげる 	<ul style="list-style-type: none"> • 互いの考えを比較する • 多様な情報を収集する • 思考を表現に置き換える • 多様な手段で説明する • 先哲の考え方を手掛かりとする • 共に考えを創り上げる • 協働して課題解決する 	<ul style="list-style-type: none"> • 思考して問い続ける • 知識・技能を習得する • 知識・技能を活用する • 思いや考えと結び付ける • 知識や技能を概念化する • 自分の考えを形成する • 新たなものを創り上げる

(NITS資質・能力の育成を目指す主体的・対話的で深い学びのイメージ図より)

(4) 各教科等における、児童生徒が「見方・考え方」を働かせる指導

「見方・考え方」は各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方であり、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものです。

また、新しい知識及び技能を、既にもっている知識及び技能と結び付けながら、社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びとなります。

なお、各教科等の学習指導要領解説で示しているそれぞれの教科等の特質に応じた「見方・考え方」は、当該教科等における主要なものであり、深い学びの実現するためには、それらの「見方・考え方」を働かせながら学習活動に取り組むことが重要です。

さらに、思考力・判断力・表現力等を育成するためには、

- 物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
- 精査した情報を基に自分の考えを形成し表現したり、目的や状況等に応じて互いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
- 思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

の三つの学習の過程が有効です。

各教科等の特質に応じて、こうした学習の過程を重視して、具体的な学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた方法について実践を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫し取り組むことが重要です。

(5) 学習評価

「学習指導」と「学習評価」は学校教育活動の根幹をなすものであり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担うものです。

また、指導と評価の一体化の観点から学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成するためには、学習評価は重要な役割を担っています。児童生徒の学習改善や教師の授業改善につながるように、工夫して実施することが大切です。

ア 観点別学習状況の評価

学習指導要領の各教科等の目標及び内容については、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理されました。指導と評価の一体化の観点から、観点別学習状況の評価についても、これらの資質・能力を踏まえた「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価することとなります。

また、各教科の目標に照らし合わせて、その実現状況を

- ・「十分満足できる」状況と判断されるものをA
- ・「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB
- ・「努力を要する」状況と判断されるものをC

のように区別して評価します。

観点別学習状況の評価の記録に用いる評価については、毎回の授業でなく、原則として単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握出来る段階で行うなど、評価の場면을精選することも必要です。

(ア) 「知識・技能」の評価

「知識・技能」の評価は、各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価します。

具体的な評価方法としては、例えばペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図る等が考えられます。また、児童生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくこと等も考えられます。



(イ) 「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

具体的な評価方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられます。



(ウ) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取ることができる部分と、②観点別評価や評定にはなじまず、個人内評価を通じて見取部分があることに留意が必要です。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、各教科等の評価の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整し、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価します。

具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。その際、各教科等の特質に応じて、児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要があります。



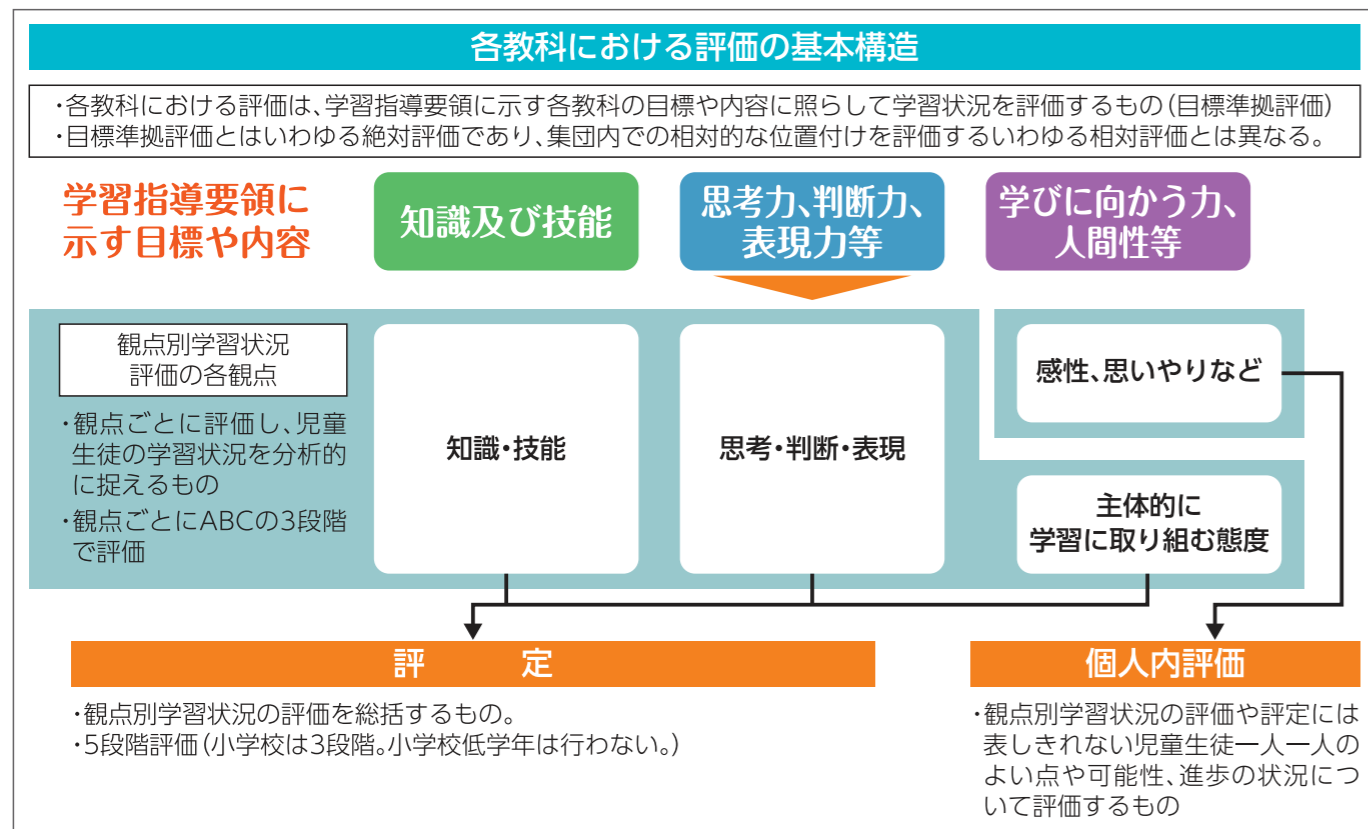
(中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」及び「学習評価の在り方ハンドブック」より)

イ 評定

各教科等の観点別学習状況評価を総括的に捉える「評定」は、児童生徒がどの教科の学習に望ましい学習状況が認められ、どの教科の学習に課題が認められるのかを明らかにすることにより、教育課程全体を見渡した学習状況を把握し指導や学習の改善に生かすことを可能にします。

評定は学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を小学校では3段階、中学校では5段階で総括的に評価します。

※「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要領の改善等について（通知）」（平成31年3月29日付け30文科初第1845号）を参照のこと



（中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」より）

5 学習場面における指導のポイント

授業での学習場面における主体的・対話的で深い学びの実現のための指導のポイントを以下に示しています。指導内容を参考に、教科別の「学びの質を高める授業スタンダード」を有効活用してほしいと考えています。

1 導入の場面（課題把握）

◆子供の問いや思い・願いを引き出し、課題意識をもたせる過程

(1) 教材提示

【「問い」や「思い・願い」を引き出すために】

- ・具体物の提示（写真、図、動画、絵、複数の資料の比較 など）
- ・既習事項の確認等（ノート、ワークシート、掲示物 など）
- ・実演等（教師による実験、子供自身が試す活動 など）
- ・対話（生活経験や既習事項の想起 など）

(2) 課題の把握

【「何を学習するか」「何ができればよいか」を明確にするために】

- ・子供の気付きや発言などをつないで焦点化し、課題（めあて）を設定する。

課題の条件

- ・子供の実態に即している
- ・子供にとって身近で分かりやすい
- ・学習への興味・関心を高めることができる
- ・適度な難易度で解決の見通しをもてる
- ・多様な捉え方や解決法などを引き出すことができる
- ・子供にとって、追究・解決する価値がある

2 展開の場面（課題の追究）

◆子供一人一人の学びを見取って適切に支援し、課題の解決につなげる過程

(1) 追究・解決（計画・方向付け・見通し）

【追究・解決への手掛かりを見付けさせるために】

- ・課題と生活経験や既習事項を関連付けて「何をどのように追究・解決するのか」の見通しをもたせる。
- ・結果の見通しをもたせる。（答えの予想、仮説を立てる など）
- ・方法の見通しをもたせる。（既習事項の活用、解決の順序 など）

(2) 追究・解決（個での追究・解決）

【自分の思いや考えをもてるようにするために】

- ・子供が「何をどのように考えているか」を見取り、個に応じた支援をする。
- ・模範例、他の作品を紹介し、追究・解決の手だてとする。
- ・机間指導をし、その後の展開を構想する。（誰の思いや考えをどのような順序で取り上げるか）

(3) 追究・解決（ペアやグループ、学級全体での話し合い）

【思いや考えを広げ深めることができるようにするために】

- 友達との交流を通して、個々の考えを共有させる。
- 思考過程を可視化し、捉えやすくする。（チョークの色、囲み、矢印 など）
- 子供たちの考えを基に話し合いをコーディネートし、ねらいに迫る。
（話し合いの論点の明確化、子供の考えを引き出しつなげる支援、考えを深めるための問いや揺さぶりなどの働きかけ）

3 終末の場面（課題の解決・振り返り）

◆子供一人一人に振り返りを促し、新たな学びにつなげる過程

(1) まとめと振り返り

【「何を学習したか」を明確にするために】

- 「何を学習したか」をまとめる。
- 自分でまとめる時間を確保する。
- 課題とまとめの整合性をとる。
- 学習した知識・技能を活用する場を設定する。
- 学習内容に関連した日常生活の事例を紹介する。
- 「どのように学習してきたか」を振り返る。
（板書やノートを基にした確認、ペアやグループでの話し合い、自己評価や相互評価の活用など）

(2) 新たな学び

【学び続ける態度を育てるために】

- 次時につなげる気付きや疑問、新たな問いや思い、願いをもたせ新たな学びへつなげる。
- 学習したことを活用できる身近な地域社会の事象や事例を紹介し、学び続ける興味・関心を高める。

私たち教師は、日々の教育活動において、輝く笑顔や真剣に学ぶ子供たちの姿を追い求め、その実現に向けて研鑽を積んでいかなければなりません。

日々のたゆまぬ努力と自己の実践を振り返ることにより、本県の目指す教師像である「学び続ける向上心を持ち、常により良い実践を追い求める教師」、「高度専門職としての高い知識や技能、指導力を身に付けている教師」へと成長することができるのです。

本県の子供たちの確かな学力が育まれるよう、各教師のよりよい授業づくりに向けた授業実践を期待しています。



Ⅱ 各教科の「学びの質を高める授業スタンダード」

小学校国語科で育成を目指す資質・能力とは？

国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力

知識及び技能

- 言葉の働きや役割に関する理解
- 言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け
- 言葉の使い方に関する理解と使い分け
- 書写に関する知識・技能
- 伝統的な言語文化に関する理解
- 文章の種類に関する理解
- 情報活用に関する知識・技能

思考力・判断力・表現力等

- 国語で理解したり表現したりするための力
- 情報を多面的・多角的に精査し構造化する力
- 構成・表現形式を評価する力
- 言葉によって感じたり想像したりする力
- 感情や想像を言葉にする力
- 言葉を通じて伝え合う力
- 考えを形成し深める力

学びに向かう力・人間性等

- 言葉がもつ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度
- 言葉を通じて、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする態度
- 考えを伝え合うことで、集団としての考えを発展・深化させようとする態度
- 言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度
- 我が国の言語文化を享受し、生活や社会の中で活用し、継承・発展させようとする態度
- 自ら進んで読書をし、人生を豊かにしようとする態度

単元指導計画作成のポイントとは？

- 児童の実態・学習の系統性を把握し、育成を目指す資質・能力を明確にする。
- 資質・能力を育成するための効果的な言語活動を設定する。
- 資質・能力の定着を確認するための学習評価の方法を、指導計画に適切に位置付ける。
- 教科書教材と関連した作品等について、学校図書館を活用し、読書指導との関連を図る。

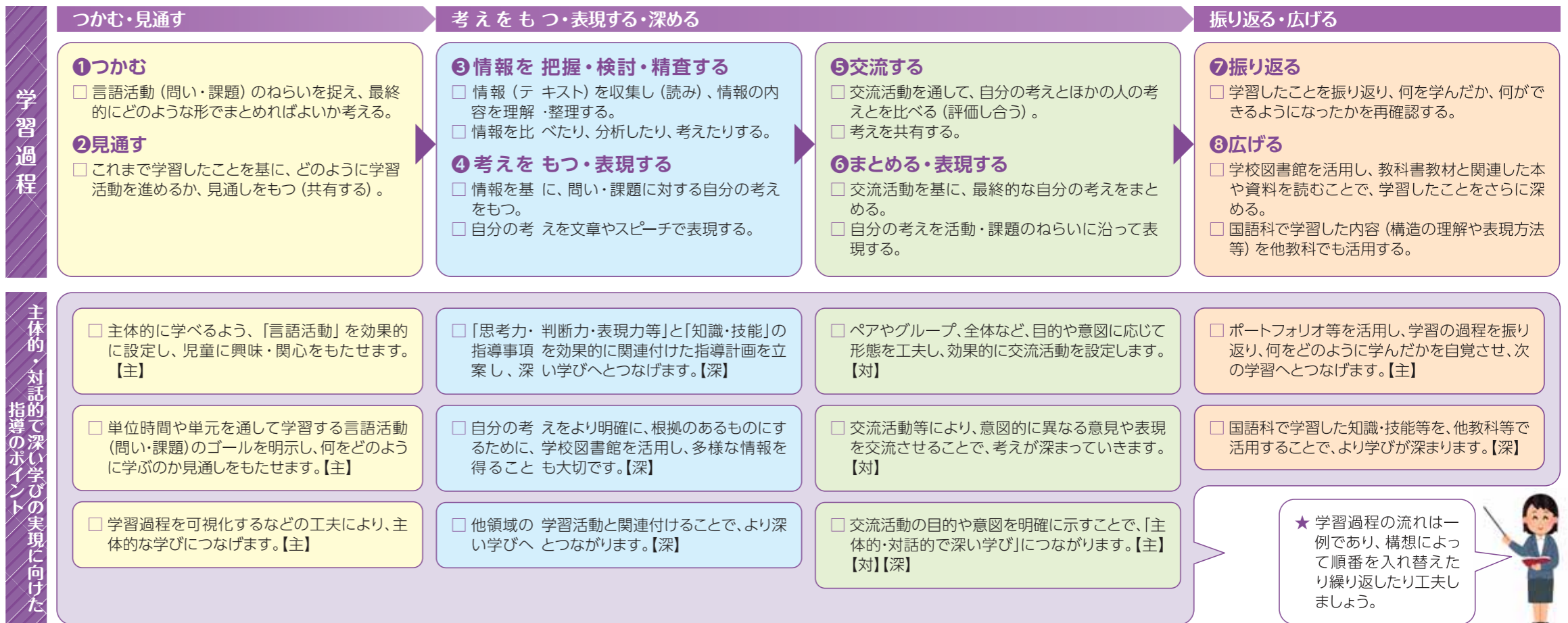


教科の特質に応じた見方・考え方

【言葉による見方・考え方】（言葉による見方・考え方を働かせるとは）学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

主体的・対話的で深い学びを実現するための学習過程

※ここでは、1単位時間の学習過程を示していますが、単元構想においても活用することができます。また、学習問題、学習課題、めあて等については「課題」に統一して表記しています。



目的に応じて内容の中心を捉えたり、段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を高める指導

※「学習状況調査報告書（青森県教育委員会：平成28年12月）」P.18参照
※●番号は、上の学習過程の番号を示しています

解説

主体的に文章を読ませるためには、目的・課題意識をもたせることが重要です。
この事例では「説明文を書く」という言語活動を設定し、構成や表現の工夫を理解するために目的意識をもって文章を読ませるとともに、「書くこと」の学習と関連付けることで、主体的に学習に取り組める学習活動となっています。

学習指導要領 第3学年及び第4学年（思考力、判断力、表現力等）
C 読むこと アウ（関連：B 書くこと ア、イ）

言語活動

下の学年の児童に読ませるための説明文を書く。

学習のながれ

【第1時】教師が作成した説明文を読み、分かりやすく書くためのポイントを理解する。

【第2時】教材文（教科書に掲載されている説明的な文章）を使用し、段落相互の関係図を作成する。

【第3時】教材文で学んだ説明の仕方を生かし、「○○説明文」を完成させる。

【第2時】の学習例

教材文（教科書の説明的な文章）で段落相互の関係図をつくらせる

1 2 3 題名と「おわり」だけの教材を読み、「はじめ」「なか」に書かれていることを予想してから教材全体を読む（確かめる）。

4 各段落に小見出しを付けてカード化し、どのように「おわり」につながっていくか、関係図に表して考える。

関係図(例)

● 題名と「おわり」から、この教材文（教科書の説明的な文章等）の内容を捉えさせます。
● 内容と「はじめ」「なか」が整合していることに気付かせます。

□段落と△段落はどちらも○○についてのことだから、まとめられるね。

問い→答え→新たな問い→答え...とつながっていくよ。

5 6 グループや学級全体で関係図を検討し合い、段落相互の関係と説明の仕方についてまとめる。

7 今日の学習を振り返り、自分の説明文作成の見通しをもつ。

小学校社会科で育成を目指す資質・能力とは？

公民としての資質・能力

知識及び技能

- 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通じた社会生活についての理解
- 様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能

思考力・判断力・表現力等

- 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力
- 社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力
- 考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力

学びに向かう力・人間性等

- 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度
- 多角的な思考や理解を通して涵養される地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚

単元指導計画作成のポイントとは？

- 単元など内容や時間のまとまりの中で、授業改善を進めるとともに、児童や学校の実態に応じ、多様な学習活動を組み合わせさせて授業を組み立てる。
- 児童の実態や教材の特性を考慮して学習過程を工夫し、問題解決的な学習を展開する。
- 授業時数を適切に配分し、効果的に作成する。
- 地域の実態を生かし、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにする。
- 観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の一層の充実を図る。
- 学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して、情報の収集やまとめなどを行うようにする。
- 博物館や資料館などの施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの調査活動を取り入れるようにする。
- 特に重視する資質・能力の定着状況を把握するために、学習評価や振り返りの活動を指導計画に適切に位置付ける。
- 単元終了後に、児童の取組状況や学習評価を基に改善策を考え、次時の計画に反映させる。



教科の特質に応じた見方・考え方

【社会的事象の見方・考え方】 社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること

主体的・対話的で深い学びを実現するための学習過程

※ここでは、1単位時間の学習過程を示していますが、単元構想においても活用することができます。また、学習問題、学習課題、めあて等については「課題」に統一して表記しています。

学習過程

課題把握

1 動機付け

- 課題を設定する。
 - 社会的事象を知る。
 - 気付きや疑問を出し合う。
 - 課題意識をもつ。

2 方向付け

- 課題解決の見通しをもつ。
 - 予想や仮説を立てる。
 - 調査方法、追究方法を考える。
 - 学習計画を立てる。

課題追究

3 情報収集

- 予想や仮説を確かめるために調べる。
 - 学校外での観察や調査などを通して調べる。
 - 様々な種類の資料を活用して調べる。
 - 他の児童と情報を交換する。

4 考察・構想

- 社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する。
 - 多角的に考察する。
 - 他の児童と話し合う。
 - 社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する。
 - 複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する。

課題解決

5 まとめ

- 考察したことや構想したことをまとめる。
 - 課題を振り返って結論をまとめる。
 - 結論について他の児童と話し合う。

新たな課題

6 振り返り

- 学習を振り返って考察する。
 - 自分の調べ方や学び方、結果を振り返る。
 - 学習成果を他者に伝える。
 - 新たな問い(課題)を見出し追及したりする。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導のポイント

- 単元の全体像を作成し、それを踏まえて1単位時間の授業の設計をします。【主】【対】【深】
- 質問事項を聞き出す「発問」と活動を促す「指示」を効果的に組み合わせながら授業を構成します。【主】【深】
- 児童の実態を踏まえ、児童の「主体性」と教師の「指導性」のバランスをとりながら授業を進めます。【主】
- 発表のさせ方や学習形態を工夫し、協働的・創造的な活動を通して個々の考えを深めさせます。【対】【深】
- 児童同士の意見の違いを生かしながら、課題を設定させます。【主】
- 課題解決の見通しをもたせるために、単元の中で何を調べるのか、どのように調べるのかという観点から学習計画を立てさせます。【主】
- 予想の理由や根拠を書かせた上で、各自が考えた予想を出し合いながら議論させます。【主】
- 資料の見方・読み取り方を示した「学び方カード」などのガイドを作成し、傍らにおいて必要な時に参考にさせます。【主】
- 児童のノートをつくる力を身に付けさせ、教師は板書の構成力を高めます。【深】
- 話し合い活動を組み入れる意義や目的、話し合うためのテーマを明確にして話し合わせます。【対】
- 児童の発言の内容(質)を豊かなものにし、書く力を付けることで言語活動を充実させます。【主】
- 児童が自分の考えをまとめ、互いに考えを出し合った後で、再度自分の考えをまとめさせます。【主】【深】
- 本時の学習のめあてに立ち返り、自分の考えや理解がどのように変わったか書かせます。【対】【深】
- 学習を振り返り、学んだ内容をさらに詳しく調べたり、他の事例を調べたりする視点をもたせ、発展的な学びにつなげます。【深】

★ 学習過程は、必ずしも一方向の流れではありません。

★ ペアやグループでの話し合いについては、目的に応じていずれの学習過程においても取り入れることが可能です。

指導の具体例

等高線と地図が示す土地の様子をより詳細に考えさせる事例

※平成30年度 学習状況調査実施報告書 小学校社会「指導例」より引用し再編集しました。

解説

地図資料の見方や等高線について主体的に捉え深く理解するためには、視覚的・体験的な学習を進めていくことが有効です。この事例では、台地の写真や鳥瞰図で興味や疑問をもたせ、課題解決では、等高線をもとに模型を作ったり、間隔に着目したりして立体的に捉えさせることで、より深い追究・解決する活動につながっています。

学習指導要領【第4学年】2 内容(4)

課題把握

- 気付きや疑問を出し合う。
- 予想や仮説を立てる。
- 調査方法、追究方法を考える。

1 川や用水路の水の流れる方向に疑問をもたせ、調査方法を考える。

台地の田んぼには、どこから水が来ているのかな。あと、人が作った用水路の水は、どこから来て、どこへ流れているのかな。

ポンプを使って近くのため池から水を台地の田んぼに引いているかもしれないね。

それだと作るための費用がかかるよ。山に登って調べることもできないから、模型を使って考えてみようかな。

水の流れを判断するために土地の高さに注目しよう。では、土地の高さを等高線と模型を使って調べてみよう。

課題追究

2 等高線について、積み木を使って確認する。

等高線は、土地を真上から見て、同じ高さを線で結んだ図です。等高線の高さに合わせて、積み木をのせてみましょう。

横から見ると傾きが違うなあ。

等高線と等高線の間は、傾きがあります。間隔の広さによって、急がゆるやかかわかるので、積み木を横から見ると山の傾きを確認しましょう。これを図で表したものを、断面図といいます。

3 台地の地図を使って川の流れる方向を確認する。

- 様々な種類の資料を活用して調べる。
- 多角的に考察する。

台地の地図(等高線)

川を下から指でなぞってみましょう。

上に行くにつれて、周りの地図の色が濃くなっていくね。

最後までなぞると取り入れ口とあって、用水路が始まっているよ。そこから用水路をなぞると土地の色が薄くなって、橋があり、途中で用水路が点線になっているよ。

土地の色が薄くなっていくのは、土地がだんだん低くなっているということです。

課題解決・新たな課題

4 用水路が流れる場所の実際の土地の様子を、山や谷の線の書き込みで捉える。

点線のところにも水が流れているということは、トンネルかな。

トンネルで水を流すのは山があるからで、橋で水を流すのは谷になっているからだと思います。

等高線では同じ色でも、実際には凸凹しています。トンネルをつくることで、凸凹をならしているんですよ。

5 本時の学びの振り返りをノートにまとめさせる。

- 学習課題を振り返って結論をまとめる。
- 新たな問い(課題)を見出し追及したりする。

河川をさかのぼると、土地が高くなっていくことを土地の高さを示す色や数値から確認できた。

山や台地で川がはらんしたりしないのかな。

はらん以外にも、どんな自然災害があるのか調べてみたいなあ。

小学校算数科で育成を目指す資質・能力とは？

数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力

知識及び技能

- 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などの理解
- 日常の事象を数理的に処理する技能
- 数学的な問題解決に必要な知識

思考力・判断力・表現力等

- 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力
- 基礎的・基本的な数量や図形の性質や計算の仕方を見だし、既習の内容と結び付け統合的に考えたり、そのことを基に発展的に考えたりする力
- 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力

学びに向かう力・人間性等

- 数学的に考えることや数理的な処理のよさに気付き、算数の学習で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度
- 数学的に表現・処理したことを振り返り、批判的に検討しようとする態度
- 問題解決などにおいて、よりよいものを求め続けようとする態度
- 抽象的に表現されたことを具体的に表現しようしたり、表現されたことをより一般的に表現しようしたりするなど、多面的に考えようとする態度

単元指導計画作成のポイントとは？

- 日常の事象を数理的に捉え、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図る。
- 具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したり、伝え合ったり、学び合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにする。
- 数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表やグラフを用いて表現する力を高めたりするため、必要な場面においてコンピュータなどを適切に活用する。
- 学年間の指導内容を円滑に接続させるため、適切な反復による学習指導を進める。
- ある領域で指導する内容を、他領域の内容の学習指導の場面で活用するなどして、複数の領域間の指導の関連を図る。
- 低学年においては、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮する。



教科の特質に応じた見方・考え方

【数学的な見方・考え方】 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること

主体的・対話的で深い学びを実現するための学習過程

※ここでは、1単位時間の学習過程を示していますが、単元構想においても活用することができます。また、学習問題、学習課題、めあて等については「課題」に統一して表記しています。

学習過程	教材との出会い・課題設定	見通し・追究・解決	まとめ・振り返り・新たな学び	
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導のポイント	① 数理的な捉えと気付き <input type="checkbox"/> 事象を数理的に捉える。 <input type="checkbox"/> 疑問や問いを表現する。 <input type="checkbox"/> 既習事項を基にして自ら問いを見いだす。 ② 課題の設定 <input type="checkbox"/> 見いだした疑問や問いから、課題を設定する。	③ 課題の理解 <input type="checkbox"/> 「何を学習するのか」を理解する。 ④ 見通しをもつ <input type="checkbox"/> 課題と既習事項や生活経験を関連付けて解決方法や結果の見通しをもつ。	⑤ 解決の実行 <input type="checkbox"/> 具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考え、表現する。 ⑥ 解決したことの検討 <input type="checkbox"/> 数学的な表現を用いて説明する。 <input type="checkbox"/> 考えを比較・検討する。 <input type="checkbox"/> 根拠を基に判断する。	⑦ 解決過程や結果の振り返り <input type="checkbox"/> 学習したことを自分の言葉でまとめる。 <input type="checkbox"/> よりよく解決できた点を振り返る。 <input type="checkbox"/> 自己の思考・態度の変容を自覚する。 ⑧ 新たな疑問や問いの気付き <input type="checkbox"/> 次時につながる気付きや疑問をもつ。 <input type="checkbox"/> 日常生活に活用しようとする。
	<input type="checkbox"/> 教材との出会わせ方を工夫し、興味・関心を高め、疑問や問いを引き出します。【主】	<input type="checkbox"/> 課題を解決するために、既習の何を用いて、どのように表したり処理したりする必要があるのか、構想を立てられるようにします。【主】	<input type="checkbox"/> 考えの共有、相違への気付き、思考の整理など目的を明確にしたペアやグループの話し合いの場を設けます。【対】【深】	<input type="checkbox"/> 課題との整合性を図り、児童の意見を取り入れながらまとめます。【深】
	<input type="checkbox"/> 児童の気付きや発言をつないで疑問や問いを焦点化し、課題を設定します。【主】	<input type="checkbox"/> 児童の発言やノート、ペアでの確認やネームカードの掲示等から、一人一人が見通しをもつことができているか見取り、支援します。【主】	<input type="checkbox"/> 具体物、図、言葉、数、式、表、グラフを用いて考えを表現させ、相互に関連付けて考察させます。【主】【深】	<input type="checkbox"/> 数学的活動の過程を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感させます。【主】【深】
<input type="checkbox"/> 児童一人一人が課題を明確に捉えられるよう、課題の理解・共有のさせ方に留意します。【主】	<input type="checkbox"/> 試行錯誤、データの収集整理、観察、操作、実験などの活動を必要に応じて取り入れます。【対】【深】	<input type="checkbox"/> 発表用ホワイトボードや思考ツール、PC、タブレット等を活用して児童の思考を可視化します。【主】	<input type="checkbox"/> 「見方・考え方」を伴った理解の深まりや自己の変容を自覚できるような振り返りをさせます。【主】【深】	
		<input type="checkbox"/> 発表用ホワイトボードや思考ツール、PC、タブレット等を活用して児童の思考を可視化します。【主】	<input type="checkbox"/> 適用問題や日常生活に関わるような問題を必要に応じて提示します。【主】【深】	
		<input type="checkbox"/> 児童の考えを基に話し合いをコーディネートし、学級全体でねらいに迫ります。【対】【深】		

★ 学習過程は、必ずしも一方向の流れではありません。
 ★ ペアやグループでの話し合いについては、目的に応じていずれの場面においても取り入れることが可能です。



目的に応じて、複数の観点でグラフから情報を読み取り、結論を導き出す指導例

※「平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 小学校 (国立教育政策研究所教育課程研究センター平成30年9月) P11・12」より引用し再編集しました。

解説

◇学習指導要領 (第3学年) Dデータの活用 (1) イ (ア)

グラフを読み取る際に、着目する部分によって、見いだした結果が違ってきます。グラフのどの部分に着目して考えたのか伝え合うことで様々な見方や考えがあることに気付くことができるようになります。

これは、収集した情報を表やグラフに整理した後、複数の観点で考察して表現している事例です。

◇自分の考えを伝える場面では、
 ・数学的表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現させる。
 ・根拠を明確にして発表させる。
 ・筋道立てて説明させる。
 ・式と図などを関連付けて説明させる。

グラフから読み取ったことの発表①

しおりさんたちの学校は、「進んであいさつをする」と「本をよく読む」のめあてに取り組んでいます。めあての取り組み状況を調べるために、7月と12月に全校児童に対してアンケート調査をし、その結果をグラフに表しました。そして、グラフから読み取ったことを基に、取り組み状況を新聞で伝えようと考えています。

1 めあての取り組み状況を調べるために、グラフを読んでわかる数値を発表し、めあてごとに分類する。

2 読み取った数値を、グラフと関連付けて説明し、どのような観点で読み取ったのかを明らかにする。

グラフから読み取ったことの発表②

「進んであいさつをする」約50人
 わたしはこの部分に着目して書きました。

「本をよく読む」約200人
 ぼくも7月から12月で増えた人数に着目して書きました。

「進んであいさつをする」の7月から12月で増えた人数だと思います。

二人とも、7月から12月で増えた人数に着目したんですね。

グラフから読み取ったことの検討

3 複数の観点で読み取ったことを基に、結論を検討する。

わたしは「進んであいさつをする」のほうがよく取り組んだと考えます。12月の人数に着目すると、「進んであいさつをする」と答えた人数のほうが多いからです。

ぼくは「本をよく読む」のほうがよく取り組んだと考えます。7月から12月で増えた人数に着目すると、「本をよく読む」のほうが増えた人数が多いからです。

着目することが違えば、結論が違ってくる。どのような結論を伝えるのか、みんなで話し合いましょう。

結論を検討する場面では、
 ・多様な考えを比較、検討、選択、統合などするための発問をする。
 ・共有させるための働きかけをする。
 ・深めるための問い返しをする等
 話し合いをコーディネートする。

グラフを読み取る観点が変わると、結論が異なる場合もあることに気付く。

小学校理科で育成を目指す資質・能力とは？

自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力

知識及び技能

- 自然事象に対する基本的な概念や性質・規則性の理解
- 理科を学ぶ意義の理解
- 科学的に問題解決を行うために必要な観察・実験等の基礎的な技能 (安全への配慮、器具などの操作、測定の方法、データの記録等)

思考力・判断力・表現力等

- 自然事象の差異や共通点に気づき、問題を見いだす力【3年】
- 見いだした問題について既習事項や生活経験をもとに根拠のある予想や仮説を発想する力【4年】
- 予想や仮説などを基に質的变化や量的変化、時間的变化に着目して解決の方法を発想する力【5年】
- 自然事象の変化や動きについてその要因や規則性、関係を多面的に分析し考察して、より妥当な考えを作り出す力【6年】

学びに向かう力・人間性等

- 自然に親しみ、生命を尊重する態度
- 失敗してもくじけずに挑戦する態度
- 科学することの面白さへの気付き
- 科学的な根拠に基づき判断する態度
- 問題解決の過程に関してその妥当性を検討する態度
- 知識・技能を実際の自然事象や日常生活などに適用する態度
- 多面的、総合的な視点から自分の考えを改善する態度

単元指導計画作成のポイントとは？

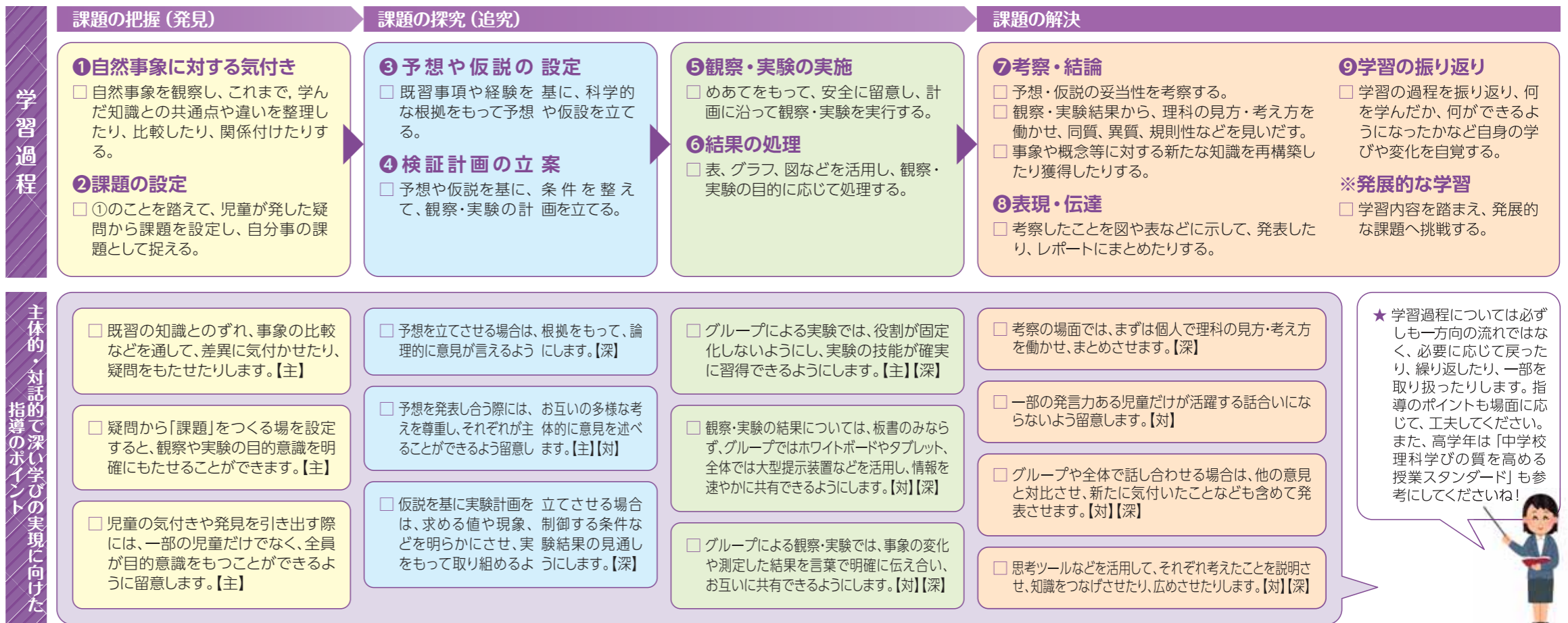
- 単元の内容や時間のまとまりを見通して、授業改善を図るとともに、学習過程の特質を踏まえ科学的に探究する学習活動が充実するようにする。
- 日常生活や他の教科との関連を図る。
- 言語活動の充実を図る。
- 観察、実験、野外観察など体験的な学習活動の充実を図る。
- 博物館等の学習施設と積極的に連携、協力を図る。
- 特に重視する資質・能力の定着状況を把握するための学習評価や、児童自らが学びを振り返る場面を指導計画に適切に位置付ける。
- 単元終了後には、児童の取組状況や学習評価を基に改善策を考え、次時の計画に反映させる。
- コンピュータや情報ネットワークなどを積極的かつ適切に活用する。

教科の特質に応じた見方・考え方

【理科の見方・考え方】 自然の事物・現象を、「エネルギー」の領域では量的・関係的な視点で、「粒子」の領域では、質的・実体的な視点で、「生命」の領域では共通性・多様性の視点で、「地球」の領域では時間的・空間的な視点で捉え、問題解決の過程の中で、比較したり、関係付けたり、条件を制御したり、多面的に考えたりすること

主体的・対話的で深い学びを実現するための学習過程

※ここでは、1単位時間の学習過程を示していますが、単元構想においても活用することができます。また、学習問題、学習課題、めあて等については「課題」に統一して表記しています。



実験結果の見通しを伴った解決の方向性について構想し、より妥当な考えへ改善する指導例

※「平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 小学校 (国立教育政策研究所教育過程研究センター平成30年9月) P17-18」より引用し再編集しました。

解説

乾電池でモーターを回す回路において、まず、モーターを通る前後での電流の大きさや流れ方について、実験結果の見通し(予想)をもちます。実験後、実験結果の見通し(予想)と実験結果を比較して、「一致」や「不一致」について明確に捉え、より妥当な考えへと改善し整理します。その過程で、新たな知識を獲得することになります。この思考の過程こそが「深い学び」となります。

児童が図などを活用して、自分の考えを分かりやすく伝え合うなど、対話を通じて学習を進めていくことがポイントとなります。

学習のながれ

乾電池とモーターを使って回路をつくり、動くおもちゃ(扇風機)づくりをする。【第1時】

電流が回路の中をどのように流れているのかを予想し、実験方法を構想する。【第2・3時】

電流が回路の中をどのように流れているのかを調べる。【第4時】

実験結果を基に電流の流れ方についてまとめる。【第5時】

乾電池の数やつなぎ方を変えると電気の動きはどのように変わるのが理解する。【第6～8時】

第5時の学習例

- 予想を踏まえた実験結果の見通しと実験結果を比較します。
- 予想と実験結果の「一致」や「不一致」を明確にし、より妥当な考えに改善します。

結果はどうなるのかな どんな結果がでたかな

不一致

かん電池の+極からモーターまで一極の電流が流れていて、モーターから戻ってくるときは、電流の向きは、逆になっているから。

針の向きも目盛りの向きも同じだったので、

実験結果から、検流計①、②は針の向きも目盛りの大きさも同じだったので、ひろしさんの予想通り、電流はかん電池の+極から-極に流れ、電流の大きさはモーターを通る前も後も変わらないということになります。

予想や仮説などは、自分で考えたことを聞き手に分かりやすく伝えるために、図などを活用して発表させます。また、板書では、丁寧に予想や結果を整理すると、他の人の予想と実験結果の「一致」「不一致」を明確に捉えることができます。不一致の場合は予想や仮説を丁寧に振り返らせ、児童自らの言葉で、より妥当な考えに改善できるように指導することが大切です。

問題 電流は回路の中をどのように流れているのだろうか。

実験結果

1ばん 2ばん 6ばん

ひろしさん しんやさん やすこさん あやかさん

結果から言えること

実験結果から、けん流計の針の向きと目盛りは①と②で同じだったので、モーターを通る前とあとでは、電流の向きと大きさは変わらない。

結ろん

電流は回路の中をかん電池の+極からモーターを通過して-極へ流れていて、モーターを通る前とあとの電流の大きさは変わらない。

学習指導要領(第4学年) A 物質・エネルギー (3) アイ

小学校外国語科で育成を目指す資質・能力とは？

コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力

知識及び技能

- 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きに関する知識
- 日本語と外国語の違い
- 上記の知識や気付きを読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能

思考力・判断力・表現力等

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりする力
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる力

学びに向かう力・人間性等

- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度



単元指導計画作成のポイントとは？

- 2学年間を通じて高学年の外国語科の目標の実現を図るため、各学校における児童の発達の段階と実情を踏まえ、学年ごとの目標を適切に定める。
- 単元末の児童の姿を明確にイメージし、その姿を細分化してスモールステップをつくる。
- 中学年において音声で慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図る。
- 言語活動で扱う題材は、他の教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をするなど教科等横断的な視点を大切にする。
- ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図る。



教科の特質に応じた見方・考え方

【外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方】 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること

主体的・対話的で深い学びを実現するための学習過程

※ここでは、1単位時間の学習過程を示していますが、単元構想においても活用することができます。また、学習問題、学習課題、めあて等については「課題」に統一して表記しています。

	コミュニケーションの目的や場面、状況等の理解・コミュニケーションの見通しを立てる	具体的なコミュニケーション活動を行う		まとめと振り返りを行う	
学習過程	①あいさつ・チャンツ・歌・ジングル □ 継続的な音声によるインプットを通して、音やリズム、イントネーションに慣れ親しむ。 □ 文字の読み方については、名称と音があることに気付き、それらに慣れ親しむ。	②Small Talk □ タイプ1【単元ベース】 ・最終的な姿(Goal)に至るまでに必要なActivityを見て、本時のねらいを捉える。 □ タイプ2【復習ベース】 ・既習の表現を使って、指導者と、または児童同士でやり取りする。	③Activity I 【Let's Listen, Let's Watch & Think】 □ デジタル教材を視聴し、分かったことをテキストに書く。	④Activity II □ 指導者がゆっくりはっきり話したり、デモンストレーションしたりするのを聞いて、分かったことをテキストやワークシートに書く。	⑤振り返り □ 本時のめあてに沿って振り返り、振り返りシートに記入する。
	□ 「元気の強制」ではなく、自然なコミュニケーションの中で「自分のことを伝え合う」時間になります。【主】 □ 指導者が自分のこと、考え及び気持ちを話すことで、児童の聞きたい、話したい、やってみようという気持ちを高めます。【主】 □ 指導者が、児童の話す内容に共感したり驚いたり喜んだりするなど、言葉を正しく使っていたかだけではなく、話されている内容そのものにも意識を向けます。【主】【対】	□ 指導者が意図的に、既習語句や表現を使い、児童にも使用を促すことが大切です。【深】 □ Small Talkや Let's Listen 等を通して「類推」する場面を設定します。【対】【深】 □ ウォーム・アップではなく、主たる言語活動の1つとして取り組みます。【深】 □ 指導者が児童と英語でやり取りし、活動と学びを結び付けます。【対】【深】	□ ゲーム中心ではなく、「自分のこと、考え及び気持ち」を話したり、「相手のこと」を聞いたりする言語活動を充実させます。【深】 □ 【活動→中間評価→指導→活動】という流れを意識して指導します。【対】【深】 □ 自分のことを伝え合うコミュニケーションを実現するためには、「決まり事」を少なくし、簡単なデモンストレーションで理解できる活動にすることが大切です。【主】【対】 □ 【中間評価→指導】の段階を挟むことで、活動が複数回に分けられ、児童の負担を軽減する「足場」をつくることができます。【対】【深】 □ 指導後に再度活動に取り組みさせる時は、必ず相手を替えるようにしましょう。相手を替えることにより、児童が他者に配慮しながら思考・判断・表現する場面が生まれます。【深】【外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる】	□ 「文字を読むこと・書くこと」に関する活動を行う場合は、必ず音声で十分慣れ親しませてから行うようにします。【主】【深】	

★ 学習過程は必ずしも一方向の流れではなく、順番を入れ替えたり、繰り返したりします。

外国語科における「思考力・判断力・表現力等」を高める授業モデル

※青森県小学校外国語活動・外国語科授業実践ハンドブック(平成31年3月)参照
 ※平成29・30年度小・中学生英語力向上推進事業「小学校英語教育に係る実践研究」実施報告書 参照

	コミュニケーションの目的や場面、状況等の理解・コミュニケーションの見通しを立てる	具体的なコミュニケーション活動を行う		まとめと振り返りを行う	
指導の具体例	①あいさつ等 □ 指導者の好きなものや欲しいものなどについてやり取りする。 □ デモンストレーションを通して本時のゴールに向けた見通しをもつ。	②Small Talk □ 指導者の好きなものや欲しいものなどについてやり取りする。 □ デモンストレーションを通して本時のゴールに向けた見通しをもつ。	③Activity I Let's Watch & Think □ デジタル教材を視聴し、内容を理解して話に合うように巻末の絵カードを置く。 □ デジタル教材を見たり、聞いたりする前に、指導者とやり取りし類推する。 □ 英語表現を繰り返し聞き、音声に十分慣れ親しむ。	④Activity II 自分のことを伝え合う活動 □ 自分のことについて、食べ物、好きなもの、欲しいもの、勉強する科目を自己決定し、相手と伝え合う。	⑤振り返り Let's Read & Write □ Activityで自分が選んだものを書き写す。 □ ワークシートをペアやグループで交換し、読み合う。
	学習指導要領 書くこと(イ)				

中学校国語科で育成を目指す資質・能力とは？

国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力

知識及び技能

- 言葉の働きや役割に関する理解
- 言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け
- 言葉の使い方に関する理解と使い分け
- 書写に関する知識・技能
- 伝統的な言語文化に関する理解
- 文章の種類に関する理解
- 情報活用に関する知識・技能

思考力・判断力・表現力等

- 国語で理解したり表現したりするための力
- 情報を多面的・多角的に精査し構造化する力
- 構成・表現形式を評価する力
- 言葉によって感じたり想像したりする力
- 感情や想像を言葉にする力
- 言葉を通じて伝え合う力
- 考えを形成し深める力

学びに向かう力・人間性等

- 言葉がもつ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度
- 言葉を通じて、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする態度
- 考えを伝え合うことで、集団としての考えを発展・深化させようとする態度
- 言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度
- 我が国の言語文化を享受し、生活や社会の中で活用し、継承・発展させようとする態度
- 自ら進んで読書をし、人生を豊かにしようとする態度

単元指導計画作成のポイントとは？

- 生徒の実態・学習の系統性を把握し、育成を目指す資質・能力を明確にする。
- 資質・能力を育成するための効果的な言語活動を設定する。
- 資質・能力の定着を確認するための学習評価の方法を、指導計画に適切に位置付ける。
- 教科書教材と関連した作品等について、学校図書館を活用し、読書指導との関連を図る。



学習過程

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導のポイント

指導の具体例

教科の特質に応じた見方・考え方

【言葉による見方・考え方】（言葉による見方・考え方を働かせるとは）学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

主体的・対話的で深い学びを実現するための学習過程

※ここでは、1単位時間の学習過程を示していますが、単元構想においても活用することができます。また、学習問題、学習課題、めあて等については「課題」に統一して表記しています。

捉える・見通す

①捉える

- 言語活動（問い・課題）のねらいを捉え、最終的にどのような形でまとめればよいか具体的にイメージする。

②見通す

- 既習事項を基に、どのように学習活動を進めるか、見通しをもつ（共有する）。

考えを形成する・表現する・深める

③情報を把握・検討・精査する

- 情報（テキスト）を収集（精読）し、情報の詳細（構造や内容等）について把握する。
- 情報を比較・検討したり、考えたりする。

④考えをもつ・表現する

- 問い・課題に対する自分の考えをもつ。
- 自分の考えを具体的な形で表現する。

⑤交流する

- 交流活動を通して、自分の考えと他者の考えとを比較・検討・共有する（評価し合う）。

⑥まとめる・表現する

- 交流活動を基に、最終的な自分の考えをまとめる。
- 自分の考えを活動・課題のねらいに沿って表現する。

振り返る・広げる

⑦振り返る

- 学習の過程を振り返り、何を学んだか、何ができたようになったかを再確認する。

⑧広げる

- 学校図書館を活用した活動や、並行読書等により、資質・能力をより高める。
- 国語科で学習した内容（構造の理解や表現方法等）を他教科でも活用する。

- 主体的に学べるよう、「言語活動」を効果的に設定し、生徒に興味・関心をもたせます。【主】

- 単位時間や単元を通して学習する言語活動（問い・課題）のゴールを明示し、何をどのように学ぶのか見通しをもたせます。【主】

- 学習過程を可視化するなどの工夫により、主体的な学びにつなげます。【主】

- 「思考力・判断力・表現力等」と「知識・技能」の指導事項を効果的に関連付けた指導計画を立案し、深い学びへとつなげます。【深】

- 自分の考えをより明確に、根拠のあるものにするために、学校図書館を活用し、多様な情報を得ることも大切です。【深】

- 他領域の学習活動と関連付けることで、より深い学びへとつながります。【深】

- ペアやグループ、全体など、目的や意図に応じて形態を工夫し、効果的に交流活動を設定します。【対】

- 交流活動等により、意図的に異なる意見や表現を交流させることで、考えが深まっていきます。【対】

- 交流活動の目的や意図を明確に示すことで、「主体的・対話的で深い学び」につながります。【主】【対】【深】

- ポートフォリオ等を活用し、学習の過程を振り返り、何をどのように学んだかを自覚させ、次の学習へとつなげます。【主】

- 国語科で学習した知識・技能等を、他教科等で活用することで、より学びが深まります。【深】

★ 学習過程のながれは一例であり、構想によって順番を入れ替えたり繰り返したり工夫しましょう。



描写の効果を考え、自分の考えをまとめる力を高める指導

～単元名「私のお気に入り物語リーフレット」に掲載する文章を作るために、心に響くお薦めの描写を見付け、推薦文にまとめよう～

解説	教材
<p>主体的に文章を読ませるためには、目的・課題意識をもたせることが重要です。</p> <p>この事例では「私のお気に入り物語リーフレット」に掲載する文章を作成するという言語活動を通して、教材文を主体的に読ませるとともに、描写について自分の考えをもたせ、表現させることをねらいとしています。</p>	<p>文学的な文章の教材文・その他の作品</p>
<p>学習指導要領 第1学年 【思考力・判断力・表現力等】 C 読むこと イ・エ</p>	<p>学習のながれ</p> <p>【第1時】(1)(2)(3) ・授業者が示したモデルを見て 課題のねらい、単元のゴールを理解し、学習の見通しをもつ。 ・課題を意識して教材文を読む。</p> <p>【第2時】(3)(4) ・教材文から自分の心に響く描写を見付け、なぜ心に響いたのか、理由を明らかにし、自分の考えをノートにまとめる。</p> <p>【第3時】(5)(6)(7) ・交流活動により、自分の考えと他者の考えとを比較したり、他者の考えを参考にしたりする。 ・最終的な自分の考えをもち、修正する。 ・これまでの学習の過程を振り返り、活動のながれを理解する。</p> <p>【第4時】(8)(1)～(7)) ・学校図書館等を活用し、教材文以外の作品からも心に響く描写を探し、第2時、第3時と同様のながれで活動する。 ・最終的に文章を完成させ、リーフレットを作成する。 ※成果物を鑑賞・批評し合う。</p>

※「学習状況調査報告書（青森県教育委員会：平成27年12月）」P.60参照
※●番号は、上の学習過程の番号を示しています

【第4時】の学習例

捉える・見通す

- ①② 第3時までの学習の過程を確認し、今日の学習の見通しをもつ。

考えを形成する・表現する・深める

- ③④ 教材文以外の作品（学校図書館等を活用）から、心に響く描写を見付ける
- ④⑥ なぜ心に響いたのか理由を明らかにし、ノートにまとめた上で、ワークシート等を活用し、リーフレットの原稿を完成させる。

振り返る・広げる

- ⑦⑧⑤ 完成したリーフレットを鑑賞・批評し合い、学びの振り返りをする。

この単元は、教材文で学習の過程を理解させ、それを生かして単元のゴールに向けた主体的な学習活動ができるような構成になっています。

○○という描写は、読者に臨場感を与える表現だわ。△△は、登場人物の気持ちが大きく変わるところに使われている描写だから、みんなにも紹介したいな。



中学校社会科で育成を目指す資質・能力とは？

公民としての資質・能力

知識及び技能

- 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関する理解
- 調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能

思考力・判断力・表現力等

- 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力
- 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力

学びに向かう力・人間性等

- 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度
- 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情
- 国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚

単元指導計画作成のポイントとは？

- 学習の問題を追究・解決する活動の充実を図る。
- 小学校社会科の内容との関連及び各分野相互の有機的な関連を図る。
- 地理的分野及び歴史的分野の基礎の上に公民的分野の学習を展開するこの教科の基本的な構造に留意して、全体として教科の目標が達成できるようにする。
- 言語活動に関わる学習を一層重視する。
- 学校図書館や公共施設、情報手段を活用し、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。
- コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する。また、情報モラルの指導にも留意する。
- 調査や諸資料から、社会的事象に関する情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視する。
- 作業的で具体的な体験を伴う学習の充実を図る。
- 社会的事象については、生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示するよう配慮する。
- 特に重視する資質・能力の定着状況を把握するために、学習評価や振り返りの活動を指導計画に適切に位置付ける。
- 単元終了後には、生徒の取組状況や学習評価を基に改善策を考え、次時の計画に反映させる。



教科の特質に応じた見方・考え方

【社会的事象の地理的な見方・考え方（地理）】

社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて働かせること

【社会的事象の歴史的な見方・考え方（歴史）】

社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりして働かせること

【現代社会の見方・考え方（公民）】

社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて働かせること

主体的・対話的で深い学びを実現するための学習過程

※ここでは、1単位時間の学習過程を示していますが、単元構想においても活用することができます。また、学習問題、学習課題、めあて等については「課題」に統一して表記しています。

学習過程

課題把握

1 動機付け

- 課題を設定する。
 - 社会的事象を知る。
 - 気付きや疑問を出し合う。
 - 課題意識をもつ。

2 方向付け

- 課題解決の見通しをもつ。
 - 予想や仮説を立てる。
 - 調査方法、追究方法を吟味する。
 - 学習計画を立てる。

課題追究

3 情報収集

- 予想や仮説の検証に向けて調べる。
 - 様々な種類の資料を活用して調べる。
 - 他の生徒と情報を交換する。

4 考察・構想

- 社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する。
 - 多面的・多角的に考察する。
 - 他者と話し合う。（討論等）
- 社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する。
 - 複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する。

課題解決

5 まとめ

- 考察したことや構想したことをまとめる。
 - 課題を振り返って結論をまとめる。
 - 結論についてレポートなどにまとめる。

新たな課題

6 振り返り

- 学習を振り返って考察する。
 - 自分の調べ方や学び方、結果を振り返る。
 - 学習成果を他者に伝える。
 - 新たな問い（課題）を見出したり追究したりする。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導のポイント

- 単元の全体像を作成し、それを踏まえて1単位時間の授業の設計をします。【主】【対】【深】
- 質問事項を聞き出す「発問」と活動を促す「指示」を効果的に組み合わせながら授業を構成します。【主】【深】
- 生徒の実態を踏まえ、生徒の「主体性」と教師の「指導性」のバランスをとりながら授業を進めます。【主】
- 発表のさせ方や学習形態を工夫し、協動的・創造的な活動を通して個々の考えを深めます。【対】【深】
- 内容の違う複数の資料を分析することを通して、課題を設定させます。【主】
- 課題を把握しその解決への見通しをもたせるため、調査方法などを明確にした学習計画を立てさせます。【主】
- 予想の理由や根拠を出し合い、議論する活動を通して、自分の予想を表現させて、課題に気付かせます。【主】【対】
- 資料の見方・読み取り方を示した「学び方カード」のようなガイドを作成し、傍らに置いて必要な時に参考にします。【主】
- 生徒同士が協動的な学習を行うために、教える・教えられる関係をつくって授業を進めます。【主】【対】
- 生徒の思考や理解に沿って、資料提示や発問の投げかけを行い、考察や構想などを通して、社会で汎用的に使える知識を獲得させます。【深】
- 生徒が自分の考えをまとめ、互いに考えを出し合った後で、再度自分の考えについて理由を付けてまとめさせます。【主】【深】
- 本時の課題に立ち返り、自分の考えや理解がどのように変わったか理由を付けて書かせます。【対】【深】
- 自分の生活に生かそうという生活改善の視点や、地域の課題を解決するために学んだことを生かそうという社会参画の視点で振り返りを行います。【主】【深】
- 学習内容を生かすため、学習成果の深化や応用、生活化、社会還元視点から、新たな学習テーマや学習活動を工夫し、発展的な学習につなげます。【深】

★ 学習過程は、必ずしも一方向の流れではありません。
★ ペアやグループでの話し合いについては、目的に応じていずれの学習過程においても取り入れることが可能です。

複数の資料を比較したり関連付けたりする活動を通して課題を追究させる事例

※平成30年度 学習状況調査実施報告書 中学校社会「指導例」より引用し再編集しました。

解説

この事例は、他の時代との共通点や相違点に着目し、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色などについて、比較したり関連付けたりするなどして、その結果を言葉や図などで表したり、意見交換したりすることで、主体的・対話的な学習となっています。また、思考ツールを活用することにより、考えや情報を整理したり、アイデアや問題を視覚化したりすることで、考えをより深めることができます。

学習指導要領
【歴史的分野】(2) 内容
B 近世までの日本とアジア
(2) 中世の日本

課題把握

- 課題を設定する。
- 予想や仮説を立てる。

1 身近にある寺院と宗派を発表する。

※身近な地域の他に他地域の資料を提示し、鎌倉時代に開かれた仏教の宗派の寺院が多いことを捉えさせてもよい。

2 鎌倉仏教が現れる時代背景を考えさせる。

※これまでの学習内容の再確認と、世の中の様子から鎌倉仏教が登場したことを、資料等を使って予想させる。

3 課題を設定する。

なぜ、鎌倉時代に新しく開かれた仏教の宗派は多くの人に広まったのだろうか。

課題追究

- 様々な種類の資料を活用して調べる。
- 多面的・多角的に考察する。
- 他の生徒と情報を交換する。

4 グループで、鎌倉時代に開かれた仏教の宗派の特徴を整理し、共通点を考える。

5 グループで、資料（平安時代初期の仏教の特徴）と鎌倉時代に開かれた仏教を比較し、どのように変化したのかを考えさせる。

6 グループで話し合ったことを発表する。

思考ツールを使ったことで、鎌倉時代と平安時代の宗派の比較が簡単にできました。

理由付けたり関係付けたりする作業が一目で分かり、まとめや振り返り、他人への説明がしやすくなりました。

※各宗派の特徴を整理し、共通点を考えるために、思考ツール（クラゲチャート等）を活用させる。これにより、各宗派の特徴を関係付けることができ、思考の可視化につながる。

課題解決・新たな課題

- 課題を振り返って結論をまとめる。
- 新たな問い（課題）を見出したり追究したりする。

7 グループでの話し合いを基に、本時の課題について、個人でまとめさせる。

※鎌倉時代の仏教は、厳しい修行をしていた平安時代前期の仏教と比べて、念仏や題目を唱えたり座禅を組んだりするなど、教えや実行することが簡単で分かりやすくなった。また、地方にも仏教の教えが伝わり、貴族だけでなく武士や民衆など多くの身分の人が信仰できるようになったので、鎌倉時代に新しく開かれた仏教の宗派は多くの人々に広まった。

8 新たな学習テーマや学習活動につなげる。

平安時代の仏教は衰退してしまったのだろうか。

鎌倉時代の仏教は、この後の時代の宗教にどのような影響を与えたのだろうか。

中学校数学科で育成を目指す資質・能力とは

数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力

知識及び技能

- 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則の理解
- 事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能
- 数学的な問題解決に必要な知識

思考力・判断力・表現力等

- 日常の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察する力
- 既習の内容を基にして、数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察する力
- 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力

学びに向かう力・人間性等

- 数学的に考えることよさ、数学的な処理のよさ、数学の実用性などを実感し、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する態度
- 問題解決などにおいて、粘り強く考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度
- 多様な考えを認め、よりよく問題解決する態度など、多面的に考えようとする態度

単元指導計画作成のポイントとは？

- 日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図る。
- 数学的な表現を用いて、論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりする学習活動の充実を図る。
- 必要に応じ、コンピュータ、情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用し、学習の効果を高める。
- 各学年の目標の実現に支障のない範囲内で、各学年で取り扱う内容の一部について、弾力的な指導が行えるようにする。
- 新たな内容を指導する際には、既に指導した関連する内容を意図的に再度取り上げ、学び直しの機会を設定する。



教科の特質に応じた見方・考え方

【数学的な見方・考え方】 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること

主体的・対話的で深い学びを実現するための学習過程

※ここでは、1単位時間の学習過程を示していますが、単元構想においても活用することができます。また、学習問題、学習課題、めあて等については「課題」に統一して表記しています。

学習過程	教材との出会い・課題設定	見通し・追究・解決	まとめ・振り返り・新たな学び	
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導のポイント	1 数理的な捉えと気付き <input type="checkbox"/> 日常の事象や社会の事象を数理的に捉え疑問や問いをもつ。 <input type="checkbox"/> 既習事項を基にして数学の事象から自ら問いを見いだす。 2 課題の設定 <input type="checkbox"/> 見いだした問いから、課題を設定する。	3 課題の理解 <input type="checkbox"/> 「何を学習するのか」を理解する。 4 解決の見通し <input type="checkbox"/> 既習事項を基に 解決のための構想を立てる。(解決の計画) <input type="checkbox"/> 課題と既習事項 や生活経験を関連付けて解決方法や 結果の見通しをもつ。	5 計画の実行 <input type="checkbox"/> 言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し表現する。 6 結果の検討 <input type="checkbox"/> 数学的な表現を用いて論理的に説明する。 <input type="checkbox"/> 導いた結果を比較・検討する。 <input type="checkbox"/> 解決過程を振り返り、結果の意味を考察する。	7 解決過程や結果の振り返り <input type="checkbox"/> 学習したことを自分の言葉でまとめる。 <input type="checkbox"/> 導いた結果やその価値を振り返って自覚する。 <input type="checkbox"/> 自己の思考・態度の変容を自覚する。 8 新たな疑問や推測 <input type="checkbox"/> 次時につながる気付きや疑問をもつ。 <input type="checkbox"/> 日常生活や社会に活用しようとする。
	<input type="checkbox"/> 教材との出会わせ方を工夫し、事象を数理的に捉えさせ、疑問や問いを引き出します。【主】	<input type="checkbox"/> 課題を解決するために、既習の何を用いて、どのように表したり処理したりする必要があるのか、構想を立てられるようにさせます。【主】	<input type="checkbox"/> 思考の過程や判断の根拠などを数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現させます。【主】【深】	<input type="checkbox"/> 課題との整合性を図り、生徒の意見を取り入れながらまとめます。【深】
	<input type="checkbox"/> 生徒の発言をつないで疑問や問いを焦点化し、課題を設定します。【主】	<input type="checkbox"/> 試行錯誤、データの収集整理、観察、操作、実験などの活動を必要に応じて取り入れます。【対】【深】	<input type="checkbox"/> お互いの考えをよりよいものに改めたり、一人では気付くことのできなかつたことを見いだしたりする機会を設けます。【対】【深】	<input type="checkbox"/> 問題解決の過程を振り返り、レポートにまとめ発表するなど、共有する機会を設けます。【対】【深】
<input type="checkbox"/> 生徒一人一人が課題を明確に捉えられるよう、課題の理解・共有のさせ方に留意します。【主】	<input type="checkbox"/> コンピュータ、情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用し、学習の効果を高めます。【主】【深】	<input type="checkbox"/> グループや全体での話し合いによってよりよい考えに高めたり、事柄の本質を明らかにしたりします。【対】【深】	<input type="checkbox"/> 「見方・考え方」を伴った理解の深まりや自己の変容を自覚できるような振り返りをさせます。【主】【深】	
		<input type="checkbox"/> 生徒の考えを基に学級全体での話し合いをコーディネートし、ねらいに迫ります。【対】【深】	<input type="checkbox"/> 目的に応じた適用問題や生活や社会に関わるような問題を必要に応じて提示します。【主】【深】	

★ 学習過程は、必ずしも一方向の流れではありません。

★ グループや全体での話し合いについては、目的に応じていずれの場面においても取り入れることが可能です。



問題解決の過程を振り返って、構想を立てて事柄が成り立つ理由を説明する指導例

※「平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 中学校 (国立教育政策研究所教育課程研究センター平成30年9月) P11・12」より引用し再編集しました。

解説

◇学習指導要領
〔第2学年〕A数と式(1)ア(イ)(ウ)(エ)

事象について帰納的に調べること成り立つと予想される事柄を見だし、それを演繹的に推論することで、予想した事柄が成り立つ理由を数学的に表現している。

新たな条件についても、はじめの問題解決を基に構想を立てて自分の考えを伝え合っています。

これは、数に関する事象について考察する場面で参考となる事例です。

はじめの問題解決

はじめの数として○に整数を入れて計算すると、計算結果はいくつになりますか。

1. 3つの計算の計算結果が4の倍数になる理由を説明する。

はじめの数にする整数を自分で決めて、計算結果を求め、その数がどんな数になるか調べてみましょう。

事象を数理的に捉える

その計算結果は4の倍数になるのかな。

他の整数を入れて確かめてみようよ。

でも、すべての整数で確かめることは難しいのではないかな。

はじめの数として、 $(n-4) \times 3 + n$ と表せるよ。

それを計算して、 $4 \times (\text{整数})$ の形にすれば4の倍数になることがいえるぞだね。

帰納的に調べることです予想が成り立つことの見通しをもつ。

事柄が成り立つ理由を数学的に表現する。

計算すると $4n-12$ 、 $4 \times (n-3)$ と変形できるね。

$n-3$ が整数だから、4の倍数になるといえるね。

新たな条件の問題解決

2. 3つの計算の順番を自分で入れ替え、その順番で計算したときの計算結果について調べる。

では次に、3つの計算の順番を自分たちで入れ替えてみて、その計算結果が何の倍数になるかを調べてみましょう。

私たちの班では、「はじめの数をつす」「3をかける」「4をひく」の順番にして、計算結果が何の倍数になるかを調べてみよう。

はじめの数としていろいろな整数を入れて計算してみよう。

はじめの数として2を入れると計算結果は8になるよ。だから4の倍数になるのかな。

3を入れると14、4を入れると20になるから、2の倍数になりようだよ。

計算結果についていえることは「2の倍数になる」でいいよね。

問題解決の過程を振り返り、新たな条件について解決の構想を立てる。

帰納的に推測したり、演繹的に考えたりする。

互いのよさや一人では気付くことのできなかつたことを見いだす。

予想したことの考察

いつでも4の倍数になることを考えたときには、文字を使うことで説明できました。計算の順番を入れ替えた場合も同じように、文字を使って説明すればよいと思います。

はじめの数nとすると、 $(n+n) \times 3 - 4 = 6n - 4$ と表せるよ。

演繹的に推論する。

$6n - 4 = 2 \times (\text{整数})$ の形で表すと、 $2(3n - 2)$ になって、 $3n - 2$ が整数だから、2の倍数になるといえます。

はじめの数として入れる整数をnとすると、計算結果は、 $(n+n) \times 3 - 4 = 6n - 4 = 2(3n - 2)$

$3n - 2$ は整数だから、 $2(3n - 2)$ は2の倍数である。したがって、はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果はいつでも2の倍数になる。

予想が正しかったことを文字式を用いて説明する。

中学校理科で育成を目指す 資質・能力とは？

自然の事物・現象を科学的に探究するために 必要な資質・能力

知識及び技能

- 自然事象に対する概念や原理・法則の基本的な理解
- 科学的探究についての基本的な理解
- 探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能（安全への配慮、器具などの操作、測定の方法、データの記録・処理等）

思考力・判断力・表現力等

- 自然事象の中に問題を見いだして見通しをもって課題や仮説を設定する力
- 計画を立てて、観察・実験する力
- 得られた結果を分析して解釈するなど、科学的に探究する力と科学的な根拠を基に表現する力
- 探究の過程における妥当性を検討するなど総合的に振り返る力

学びに向かう力・人間性等

- 自然を敬い、自然事象に進んでかかわる態度
- 粘り強く挑戦する態度
- 日常生活との関連、科学することの面白さや有用性の気付き
- 科学的根拠に基づき判断する態度
- 小学校で身に付けた問題解決の力などを活用しようとする態度

単元指導計画作成のポイントとは？

- 単元の内容や時間のまとまりを見通して、授業改善を図るとともに、学習過程の特質を踏まえ科学的に探究する学習活動が充実するようにする。
- 日常生活や他の教科との関連を図る。
- 言語活動の充実を図る。
- 観察、実験、野外観察など体験的な学習活動の充実を図る。
- 博物館等の学習施設と積極的に連携、協力を図る。
- 特に重視する資質・能力の定着状況を把握するための、学習評価や生徒自身が学びを振り返る場面を指導計画に適切に位置付ける。
- 単元終了後には、生徒の取組状況や学習評価を基に改善策を考え、次時の計画に反映させる。
- コンピュータや情報ネットワークなどを積極的かつ適切に活用する。



教科の特質に応じた見方・考え方

【理科の見方・考え方】 自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること

主体的・対話的で深い学びを実現するための学習過程

※ここでは、1単位時間の学習過程を示していますが、単元構想においても活用することができます。また、学習問題、学習課題、めあて等については「課題」に統一して表記しています。

学習過程

課題の把握（発見）

①自然事象に対する気付き

- 自然事象を観察し必要な情報を抽出・整理する。
- 関係性（共通点・相違点）を見いだす。

②課題の設定

- 見いだした関係性や傾向から課題を設定する。

課題の探究（追究）

③予想や仮説の設定

- 既習事項や経験を基に、科学的な根拠をもって予想する。
- 見通しをもって検証できる仮説を設定する。

④検証計画の立案

- 仮説を基に実証性・再現性・客観性のある検証（観察・実験）計画を立案する。

⑤観察・実験の実施

- 観察・実験を評価・選択・決定する。
- 観察・実験の目的を明確に捉え、安全に留意し、計画に沿って正確に観察・実験を実行する。

⑥結果の処理

- 結果の特性に応じて、表、グラフ、図などを有効に活用し処理する。

課題の解決

⑦考察・結論

- 予想・仮説の妥当性を考察する。
- 複数の検証結果、既習の結果を比較し、同質、異質、規則性を見いだす。
- 事象や概念等に対する新たな知識を再構築したり獲得したりする。
- 日常生活や社会に活用しようとする。

⑧表現・伝達

- 考察したことをレポートにまとめたり図や表などに示して発表したりする。

⑨学習の振り返り

- 学習の過程を振り返り、何を学んだか、何ができたようになったかなど自身の学びや変化を自覚する。

※発展的な学習

- 学習内容を踏まえ、発展的な課題へ挑戦する。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導のポイント

- 生徒の学習状況や興味・関心について、これまで身に付けた知識や考え方を十分に把握し、教材等を提示します。【主】
- 予想を立てさせる場合は、理科の見方・考え方を働かせるようにします。【深】
- グループによる実験では、役割が固定化しないようにし、実験の技能が確実に習得できるようにします。【主】【深】
- 考察の場面では、まずは個人で理科の見方・考え方を働かせて同質、異質、規則性、仮説の妥当性などについて整理させ、分析させます。【深】
- 仮説を立てさせる場合は、理科の見方・考え方を働かせるとともに、学習課題に対する検証結果の見通しを踏まえて、考えさせます。【深】
- 観察・実験の結果については、板書のみならず、グループではホワイトボードやタブレット、全体では大型提示装置などを活用し、情報を速やかに共有できるようにします。【対】【深】
- 分析し解釈したことをグループで話し合わせる場合は、他の意見と対比させ、新たな気付きとなった内容なども含めて交流させます。【対】【深】
- 仮説を基に実験計画を立てさせる場合は、実証性・再現性・客観性を踏まえて、実験等の妥当性について考えさせるとともに、求める値や現象と制御する条件を明確に捉えさせ、見通しをもって取り組めるようにします。【深】
- 観察・実験結果について、生徒自身に、表、グラフ、モデル図、スケッチ等の様々な処理方法の中から、最も適切な処理方法は何かを判断させます。【深】
- 思考ツールなどを活用して、それぞれ考えたことを説明させる取組を通して、知識をつなげさせたり、広めさせたりします。【対】【深】
- 「結論」は、「課題」に沿って、生徒の意見を基にまとめさせます。【深】

★ 学習過程については必ずしも一方向の流れではなく、必要に応じて戻ったり、繰り返したり、一部を取り扱ったりします。指導のポイントも場面に応じて、工夫してくださいね！

ものづくりを行うことで問題を見だし、探究の過程を通して知識・技能を習得する指導例

※「平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 中学校（国立教育政策研究所教育過程研究センター平成30年9月）P15-16」より引用し再編集しました。

指導の具体例

解説

最近、ニュースなどで目にする「テレプロンプター」は、話し手から文字が見えても聞き手からは文字が見えない機器です。この事例では、この機器のモデルを実際につくり、興味や関心を高め、生徒自身が問題を見いだして複数の課題を設定しています。

また、探究の課程を通して知識・技能を習得する学習であり、主体的に課題解決させる授業づくりの参考となる事例です。

学習のながれ

テレプロンプターのモデルをつくり、問題を見いだして複数の課題を設定する。（第1時）

探究を通して課題①や③を解決し「光の道筋」の知識・技能を習得する。（第2時）

探究を通して課題②を解決し「光の反射の法則」の知識・技能を習得する。（第3時）

学習指導要領第1分野
 (1)身近な物理現象
 (ア)光と音 (イ)光の反射・屈折

第1時の学習例

問題と課題の設定例

問題：話し手だけに映って見えるのはなぜか

課題：①透明な板に反射する光の道筋を調べよう
 ②光が反射するときの角度の規則性を調べよう
 ③斜めになっている透明な板を真っすぐに置くと光について調べよう

1 テレプロンプターは話し手から文字は見えて、聞き手からは文字が見えない機器であることや実用例を紹介しします。

2 テレプロンプターのモデルをつくり疑問や問題をグループで整理します。

3 各グループが見いだした問題を整理して、課題を設定させます。課題は1つだけでなく、複数になることもあります。解決できそうな課題に設定する視点も大切です。

第2時の学習例

話し手から文字が見えても、聞き手からは見えない原理を図を使ってまとめます。

1 課題①や③を解決するために、テレプロンプターの透明なガラスの代わりに直方ガラスを使って、写真のような光の進み方について調べます。

2 話し手から文字が見えても、聞き手からは見えない原理を図を使ってまとめます。

第3時の学習例

課題②では、光が鏡で反射するときの規則性を調べます。その後、テレプロンプターの光の進み方について、「光の反射の法則」を付け加え、さらに知識を深めていきます。

中学校外国語科で育成を目指す資質・能力とは？

簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力

知識及び技能

- 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の動きに関する知識
- 上記の知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能

思考力・判断力・表現力等

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力

学びに向かう力・人間性等

- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度



単元指導計画作成のポイントとは？

- 学年ごとの学習到達目標を適切に定め、3学年間を通じて外国語科の目標の実現を図る。
- 単元末の生徒の姿を明確にイメージし、その姿を細分化してスモールステップをつくる。
- 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図る。
- 言語活動で扱う題材は、他の教科等で生徒が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をする。
- ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図る。

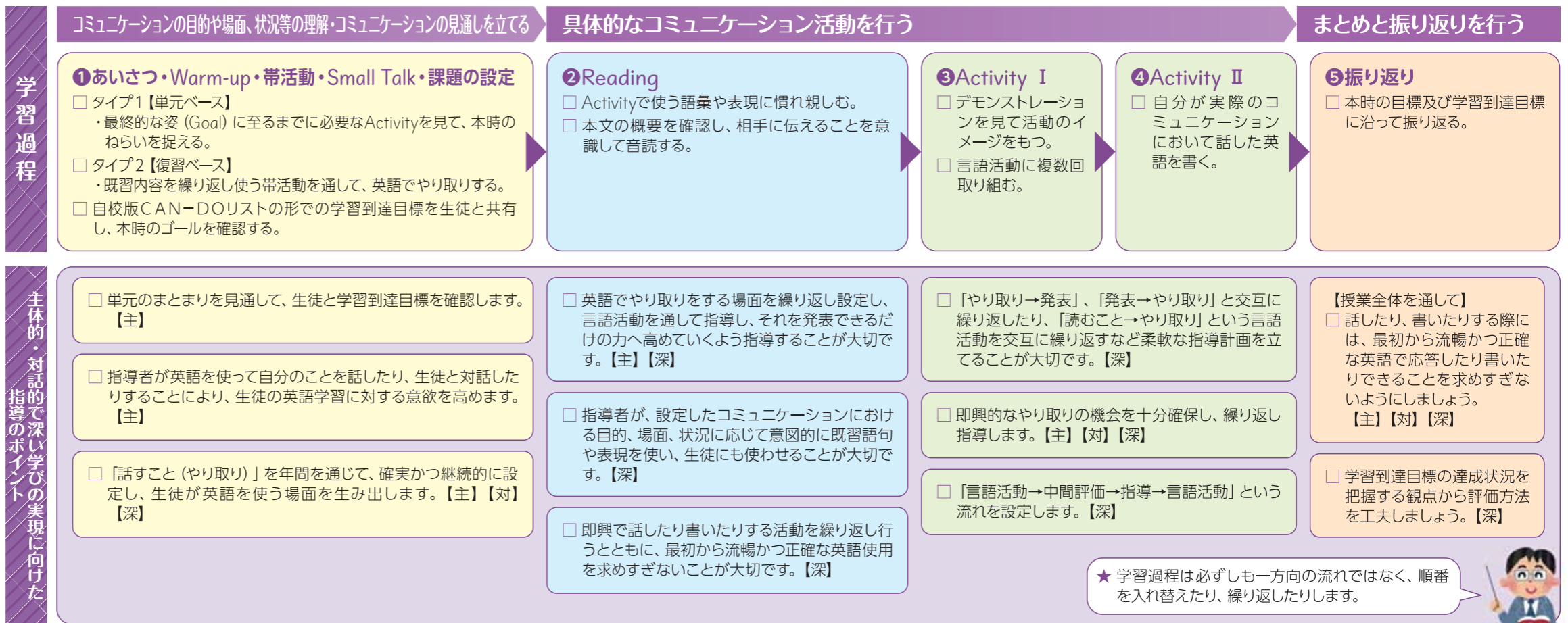


教科の特質に応じた見方・考え方

【外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方】 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること

主体的・対話的で深い学びを実現するための学習過程

※ここでは、1単位時間の学習過程を示していますが、単元構想においても活用することができます。また、学習問題、学習課題、めあて等については「課題」に統一して表記しています。



外国語科における「思考力・判断力・表現力等」を高める授業モデル

※平成29・30年度小・中学生英語力向上推進事業「小学校英語教育に係る実践研究」実施報告書 参照
※文部科学省作成 小学校外国語・外国語活動指導案例 参照

